

1 自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	4072600713		
法人名	有限会社 ラビット		
事業所名	グループホーム つるとかめ		ユニット名 つる
所在地	福岡県行橋市東大橋1-3-10		
自己評価作成日	平成24年1月6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月20日	評価結果確定日	平成24年2月28日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

つるとかめでは、人員基準を大きく上回る人員配置をしている。通常の介護職員の他に看護師、計画作成者、管理者が勤務する体制をとっている。その為、急な病院受診が必要な方や体調の悪い方などに個別に対応出来ている。また一人一人の状態に合わせた援助を行っている。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

田園風景が広がる住宅地に、広い敷地を持つ同法人の有料老人ホームと隣接して、2階建てのグループホーム「つるとかめ」が運営されている。余裕ある職員数が常に配置され、急な診察に職員が同行したり、その日の希望による外出等、日々変化する日常に臨機応変に対応している。地区の町内会に加入し、行事や催しに参加したり、行橋市地域ケア複合センターの研修参加や、グループホーム協議会の活動に積極的にに関わり、地域密着型サービス事業所としての存在を高めている。前回評価以降、介護計画のモニタリング・評価や担当者会議の内容の充実に取り組み、また、職員の内外研修受講等、課題解決に向けた取り組みがなされており、質の向上への取り組みが確認できる。今後も理念のもと、関係者との連携を活かしながら、入居者の方々が「いきいきと暮せる」居場所として、また地域の福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でいつまでもいきいきと暮らし自分のリズムに合わせたその人らしい普通の暮らし」の理念をあげており、地域とのつながりを重視したサービスを行っている。	創立来の理念を一番目に付く場所に掲げ、朝のミーティング時に唱和されている。理念に基づき、介護計画が周到に立てられ、実践評価とつながっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に区長と交流があり、地域の行事や活動の情報を受けている。	町内会に加入し、総会ではグループホーム「つるかめ」として紹介されている。花運動の花植えや無縁仏の供養と、地域の活動にも参加している。公道に面した東屋で休憩しながら、地域の方々との挨拶や会話が楽しみとされており、ハーモニカ・踊り・手品などのボランティアの方との交流の機会もあり、日常的な交流を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が、親族の介護の相談に來られ、介護保険制度の説明やサービスの利用方法、認知症の方の援助方法など相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者、家族、地域区長、市担当職員の出席があり、要望や助言を伺う事でサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催し、家族、地域代表、市担当者と共に、職員の出席が定着している。グループホームの現状報告と共に、行政や地域の情報交換を行う機会にもなっている。議事録は詳細に書かれ、特に質疑応答の内容がわかりやすく次回へ繋がる資料となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員とは常に連絡を取りながら、施設運営やサービスについて、指導や助言を受けている。市が企画する、行事や研修に参加しサービスの向上につなげている。	市主催の介護保険会議や研修に積極的に参加し、市職員の参加を得ているグループホーム協議会で、圏内のホームに災害が起こった際、他のホームの受け入れが可能であるか等、実践的な検討を行っている。ヒヤリハットや事故報告は、その都度、市の担当者に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを配布し職員一人一人が理解し、身体拘束を行わない援助を実践している。	身体拘束についてミーティングでマニュアルを配布し「自分がされたら嫌な事は」や「身体的のみならず精神的な拘束とは」をテーマに話し合っている。また、管理者自身の過去の体験から、施錠の弊害は熟知されているが、現在、安全面への配慮を優先し、玄関の施錠を行っている。	施錠されている現状について、ミーティングや運営推進会議で検討を継続しながら、関係者間での共有認識を図っていくことも必要です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について検討会を開き、全職員理解出来ていると思っている。			

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルを配布し、職員の理解を促している。	現在、成年後見制度を活用している方がおり、職員へマニュアルを配布し、学ぶ機会としている。	内外の研修の機会を確保し、職員の知識を深めていくことや、関係機関の協力も得ながら、家族等への情報発信にも期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった時点から、細かく説明し、納得して契約、入居してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族及び利用者さんが参加され、意見や要望を言ってもらっている。日常的にも意見や要望は聞き入れている。	運営推進会議は、家族が率直に意見を述べる機会として捉えている。介護計画の検討にあたっては、必ず家族の意向を確認し作成している。家族より「もう少し運動を」との要望もあり、ラジオ体操や歩行訓練を介護計画に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話しやすい人間関係を築いている。良い意見は積極的に取り入れている。	ドライブ、レクリエーション等の企画・実践にあたり、担当職員や地域のボランティア活動に詳しい職員等の提案や意見を確認している。2ユニットの職員間の連携を図るため、管理者以外に1名を日勤常勤で配置し、各職員の意志の疎通がスムーズに図れるように体制づくりを行っている。また、管理者は個人面談を重視し、個人の思いや意向を把握できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各自の能力は把握している。勤務状況や勤務姿勢を考慮し毎月の給与で調整給として支給している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を理由に採用対象から排除していない。	採用にあたっては、入居者にゆっくり礼儀正しく対応される方を望んでいる。無資格者やグループホームの経験が無い職員には、1ヶ月間の教育期間を設け指導している。職員は外部研修に年1回は参加できており、スキルアップや資格取得も積極的に促し、職員の資質向上を図っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対するマニュアルを配布し理解するようにしている。	ミーティングの機会にマニュアルを配布すると同時に、県主催の研修時の「人権・啓発について」の講義内容を伝達している。	

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加出来る研修には参加するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築グループホーム連絡協議会に参加し他事業所とも交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをしっかりと、本人の状態やニーズを把握するようにしている。要望や相談事はゆっくり傾聴し対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話を聞き対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談、本人の面談をしっかりと行い対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの状態をしっかり見極め、出来る事や日常生活の作業を手伝ってもらい、役割をもって生活している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時しっかり意見や要望を聞き、家族の意見も取り入れ支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続受診や馴染みも店や場所への外出支援を行っている。	かかりつけ医との継続した関係を重視している。また、職場の同僚であった方や、近所の方の訪問の機会がある。お正月・お盆には家族と共に過ごせるよう、外出・外泊を支援している。	

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごしてもらい、交流が図れるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所された家族からの相談にも対応している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向にそえるよう努力している。	定期的にチェックシートを用い、アセスメント表を更新している。意思の疎通が困難な方には、表情や行動等から得た情報を担当者会議で検討している。他の事業所から入居された場合は、添書を十分に参考している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い今までの暮らし方を把握できるよう努力している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察、記録をしっかり行い状態を把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者の意見やアイデアを参考にし介護計画を作成している。	計画の見直しの際には、アセスメントをその都度チェックしている。本人、スタッフ、介護支援専門員、看護師と共に担当者会議を開催し、家族とも話し合っている。計画内容を個別サービス計画表と連動させ、日々のケアの中に結び付け、モニタリングにつなげている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化やニーズの変化があれば、その都度計画を見直している。		

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人の能力やニーズに対応して支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化センターなどが企画する作品展などに出展し、交流を図り楽しく生活出来るよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には定期的な受診や往診が受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医との関係を大事にしている。家族が同行される場合も、情報を提供できるように看護師か職員が付き添い、診察や往診の結果は連絡ノートに記載し周知徹底している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はいつでも、看護師に相談や指示を仰げる体制をとっている。看護師も利用者さんの状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された利用者さんには頻繁に面会に行き、状態の把握に努めている。地域の主だった医療機関のソーシャルワーカーやケアマネなどとは、友好的な人間関係を築けていると思っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を作り、そのような事態になった場合 検討している。書面に意向を確認しサインしてもらっている。	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。本人や家族の意向に添えるよう、関係者間で出来る限りの支援を検討し、実際に終末期の支援を行った経緯がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの場で、マニュアルの配布で緊急時の対応はしっかり出来ると思っている。		

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っている。水害や地震災害の場合は、全員の利用者さんの安全確保は難しいと思われる。区長さんとの話の中で施設で動かずじっとしていた方が良いと言われている。	消防署立会いの総合訓練と自主訓練が実施され、全職員が「消火器が使える。」「連絡方法が把握出来ている。」等を周知徹底している。風水害についても、地区の代表とともに、公の指定である中学校への避難が良いか、また、ホーム内で待機すべきかの是非について、話し合いの機会を持っている。	地域との協力体制づくりとともに、災害時の停電や断水など生活ラインの断絶、また、交通遮断による流通障害などを想定し、備蓄品についても検討を行うことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの性格や状態を考え対応している。	ミーティングにおいて、声かけや対応についての事例をもとに、尊厳やプライバシーへの配慮について検討する機会を持っている。個人情報や守秘義務について法令遵守に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかりと本人のニーズや希望を把握できるように。信頼出来る人間関係を築けていると思っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のリズムに合わせた生活が送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うようにしている。化粧をして下さいと訴える利用者さんも居り、外出する時やイベントの時は行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの能力にもよるも、能力のある方には出来るだけ手伝ってもらっている。食器を下げる事が出来る方は全員、行っている。	職員も同席して、同じ食事を一緒に食し、さりげなく介助・見守りを行っている。もやしの根きり等の調理準備にも力を発揮してもらっている。行事食として、バイキング形式や誕生日メニューなど工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は全員記録に残し、栄養不足や水分不足にならないよう支援している。		

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 必ず行っている。必要な方にはマウスウォッシュを使用し口腔ケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、排泄状況を把握している。誘導が必要な方は、定期的に声をかけ日中帯は全員トイレでの排泄介助を行っている。	日中は、トイレに誘導し便座に座ってもらい、トイレでの排泄習慣の継続を支援している。夜間についても、個別のニーズに応じた支援が行われている。ラジオ体操や歩行訓練、足上げ運動等を行い、入居時に比べ排泄の自立に効果を上げている事例も見られる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便状況を確認し便秘への対応をしっかりと行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日は決まっているが、利用者の希望や状況により変更は可能です。	希望やタイミング、体調不良時等、状況に応じて臨機応変に対応している。個々の入浴の方法についても、ミーティングで詳細に検討され、身体状況に応じた入浴支援が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は活動支援を行い、夜間しっかり眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きはいつでも確認できる場所にあり、理解出来ている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ニーズを把握し望む生活を送れるよう努力している。		

福岡県 グループホーム つるとかめ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は希望があれば、随時行っている。月に一度は外出レクを企画し利用者さんに楽しんでもらっている。家族の方も都合があれば同行してもらっている。	公道に面した敷地内には自動販売機のある東屋があり、定時の散歩コースとなっており、また、ゆとりある人員配置により、急な外出や買い物に対応が可能である。月1回の外出レクリエーションも行われ、その折の、にこやかなスナップ写真が貼られていた。日常的にも、中庭で外気浴・日光浴の機会を持ち、外気に触れられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っていない。 お金の管理は家族に任せている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話をかけさせる事はしていない。希望があれば、職員がかけ、かわっている。 毎月請求書と一緒に職員が書いた一筆レターを入れているが、それと一緒に利用者さんも書いて送る時もある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部の騒音はほとんどない。光はブラインド細かく調整している。	2面が大きなガラス窓で日あたりがよく、冬場でも暖かく、周囲の田園風景が一望出来る空間となっている。厨房に面した広いスペースで、各自決まった椅子やソファに座り、食事作りの雰囲気を楽しまれていた。正月の飾り物や季節感あふれる手作りの暦が置かれ、清潔で開放的な共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具など持ってきてもらっている。	各部屋は採光がよく、四季や天候の変化を感じることが出来る。壁には結婚式に出席した際の入居者や家族の写真等が貼られていた。卓袱台や読みかけの新聞が置かれ、入居前の生活が継続している様子が伺える。個々それぞれの好み活かされた落ち着いた居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態に合わせた支援を行っていると思っている。		